



様式第4号(第7条関係)

令和8年2月16日

東かがわ市議会議長
工藤正和様

東かがわ市議会議員
(個人)・会派・その他)
氏名 田中貞男

行政視察等報告書

1	日時	令和8年2月4日	
2	参加者	田中貞男	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		綾川たい肥について	香川県綾川町役場
4	研修・調査内容	綾川町のたい肥化事業について ・綾川たい肥の取組みのきっかけについて ・刈草の処理費の削減効果等について ・町のSDGs関連事業について	
5	研修成果	別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)	
6	費用	なし	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

綾川町のたい肥化について

綾川町のたい肥化については、令和元年に綾川町建設業協会から建設課に刈草のたい肥化について提案があったことでスタートした。たい肥化することで処分費が削減できるとともに、町のSDGs事業としてPRもでき、町民にたい肥を配布できること、また、周辺環境に影響なくたい肥化ができる事を理由に進めてきている。

令和2年度から、試験的に実施した。町道の86路線の内、55路線で約300m³の刈草に対して、120m³のたい肥化に成功した。この年は、すべて町民に配布したとのこと。

問題点

- 1 枝や泥などの混在物が多く見られた。
- 2 大きな枝などの粉碎経費などがかさむようになってきた。

大きな枝等を選別するのに手間がかかるようになったことで、ウッドチップパーなどの機械をリースして行うようになった。

運動公園などの公共施設の刈草なども受け入れ可能とのこと、当初の倍の300m³のたい肥ができるようになり、配布を2回実施することになった。

現在の費用は、約900万円ほどかかっている。また、たい肥化には種菌が必要であり、1トンのたい肥を作るのに種菌が10万円ぐらいかかるため、種菌を培養してコストを下げている検討をしているとのこと。費用が増大しており、商品化からの販売を検討していく。また、用地の確保と風雨をしのげる建屋などが必要であることから、先進地事例を参考にしていきたいとのこと。たい肥は、主に家庭菜園や農家に配布して、ナス・キュウリ・サツマイモなどの栽培に使われているとのことだった。

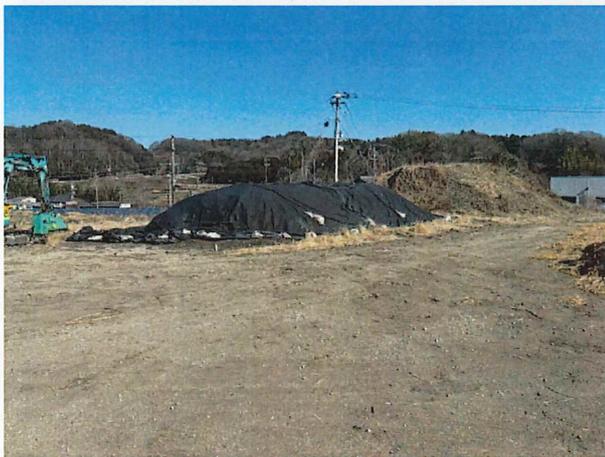
研修成果

広い地で雨ざらしの中でのたい肥化ではあり、建設業者の協力してもらいながらの取り組みであることから、課題はあるが、有機栽培とリサイクル(SDGs)の推進につながっていくと思った。

綾川町視察写真



綾川町たい肥場



たい肥化するためシートで発酵を促す

樹木の問題